

【報告事項】(1)令和8年度WBCによる内部被ばく検査の予定について

① 学校巡回検査

市立、私立、国立小学校、松陵義務教育学校、ふくしま支援学校、県立大笹生支援学校、福島大学附属特別支援学校の全46校を対象に、概ね6月から来年2月にかけて巡回検査を実施します。

対象学年は小学校2・5年生、松陵義務教育学校の2・5年生及び支援学校の小学部2・5年生、中学部2年生、高等部1・3年生とします。

【参考】市立小・中・支援学校における対象児童数（令和8年4月現在）

小学2年生 1,753名 小学5年生 2,005名

支援学校 中学部2年生 10名 高等部1年生 15名 高等部3年生 14名

計 3,797名

② 地区巡回検査

学校巡回検査、施設巡回検査を実施しない5月及び夏季・春季休業期間中、市内の各地区で巡回検査を実施します。

主に該当地区の住民を対象としています。

実施期間については、各地区のこれまでの実施状況や規模を考慮し、1週間～2週間程度を予定しています。

4月・・・13日（月）～24日（金） 清水地区（土日を除く）

10日間で、計 88 名が受検しました。

【参考】平成28年度、平成30年度、令和6年度に実施

直近の実績：令和6年度 → 62名

5月・・・11日（月）～22日（金） 吾妻地区（土日を除く）

【参考】平成26年度、平成27年度、平成29年度、令和元年度、令和6年度に実施

直近の実績：令和6年度 → 98名

7月・・・27日（月）～31日（金） 信陵地区

【参考】平成26年度、令和2年度、令和6年度に実施

直近の実績：令和6年度 → 45名

8月・・・ 3日（月）～ 7日（金） 蓬萊地区

【参考】平成27年度、平成29年度、令和2年度、令和5年度、令和7年度に実施

直近の実績：令和7年度 → 58名

来年3月・・・ 8日(月)～19日(金) 北信地区(土日を除く)

【参考】平成30年度、令和2年度、令和6年度に実施

直近の実績：令和6年度 → 66名

③ 施設巡回検査

障害者支援施設を巡回し、入所者を対象に内部被ばく検査を実施します。

4月 7日(火)～ 8日(水) 福島おおなみ学園

2日間で、計 40 名が受検しました。

【参考】平成25年度、平成27年度、平成30年度、令和6年度に実施

直近の実績：令和6年度 → 48名

④ その他

各検査委託機関でのWBC検査は、年間を通して実施します。

- ・福島市保健福祉センター → 車載式立位型(県設置)・小児用ベッド型(委託)
- ・福島県労働保健センター → 立位型・小児用ベッド型
- ・済生会春日診療所 → 立位型

【報告事項】(2)令和8年度ガラスバッジによる外部被ばく検査の予定について

令和8年度 ガラスバッジによる外部被ばく検査予定

- ① 対象者：福島市に居住し検査を希望する者
- ② 年間スケジュール

日程概略(予定)

令和8年5月 下旬～ 6月 月上旬	ガラスバッジによる外部被ばく検査の申込案内と広報。 ・市内保育所、幼稚園、小・中学校を介し、児童生徒へ通知。 ・市政だより6月号および放射線対策ニュースやSNSにより 広報。
令和8年5月28日 ～ 7月15日	申込受付期間
令和8年8月下旬	ガラスバッジ郵送(委託業者から申込者)
令和8年9月～11月30日	ガラスバッジを着用し3か月間測定(申込者)
令和8年11月下旬	返却用封筒を同封した返却案内通知を送付 (委託業者から申込者へ)
令和8年12月1日～7日	ガラスバッジを返信用封筒にて返却 (申込者から委託業者へ)
令和8年12月下旬	ガラスバッジ測定結果報告 (委託業者から福島市へ)
令和9年1月下旬	福島市健康管理検討委員会で測定結果を評価
令和9年2月下旬	測定結果の個別通知郵送 (委託業者から申込者へ)

- ③ 申込方法 福島市オンライン申請または電話
- ④ 申込見込数 400人
- ⑤ 測定結果の評価

令和9年1月下旬に開催の福島市健康管理検討委員会で測定結果の評価
をお願いする予定です。

【報告事項】(3)令和7年度「放射線と市民の健康講座」の実施状況とアンケート結果について

令和7年度「放射線と市民の健康講座」の実施状況

事業名	月日	曜日	開会時刻	回数	主催団体等	参加人員	講師職種	内容	会場	講師	対象
【講座1】 一般編 医師講演	R8.2.14	土	14:00~ 16:00	1	福島市保健総務課	27	医師	「福島第一原発事故」 ～人と科学と地域と～	保健福祉センター 5階大会議室	福島医療生活協同組合 理事長 齋藤 紀先生	福島市民
【講座4】 放射線と子どもの健康 講座 (中学生等)	R7.11.5	水	13:40~ 15:10	1	福島市立渡利中学校	197	小児科医	「放射線と子どもの健康」 医師講話・質疑	福島市立渡利中学校	いちかわクリニック 副院長市川陽子先生	全学年生徒
	R7.11.26	水	13:40~ 15:00	1	福島市立福島第二中学校	50			福島市立福島第二中学校		1学年生徒
合計				3	回	274	人				

過去3年の実績	開催回数(回)	参加者数(人)
R4年度	5	367
R5年度	7	516
R6年度	6	186

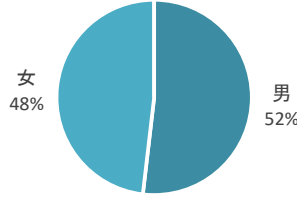
令和7年度「放射線と市民の健康講座」齋藤 紀 先生アンケート集計結果

- 日 時:令和8年2月14日(土)14時~16時
- 講 座:福島医療生活協同組合 理事長 齋藤 紀 先生
- 参加者:27人 アンケート回収27件

性別

	人数	割合
男	14	52%
女	13	48%
NA	0	0%
計	27	100%

【性別】

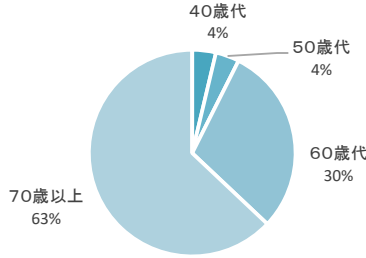


男女が万遍なく参加している。

年齢

	人数	割合
20歳未満	0	0%
20歳代	0	0%
30歳代	0	0%
40歳代	1	4%
50歳代	1	4%
60歳代	8	30%
70歳以上	17	63%
NA	0	0%
計	27	100%

【年齢】

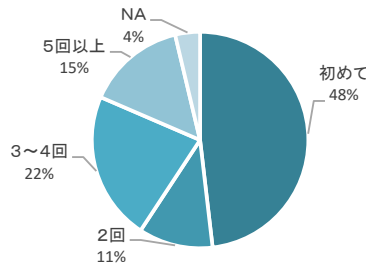


参加者の9割以上が「60、70歳代」となっている。

講座参加回数

	人数	割合
初めて	13	48%
2回	3	11%
3~4回	6	22%
5回以上	4	15%
NA	1	4%
計	27	100%

【参加回数】

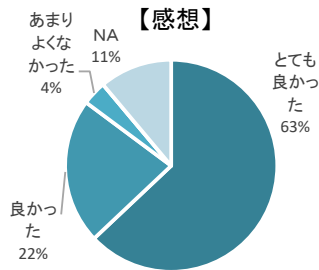


「初めて」48%
「2回目以上」48%となっている。

講座感想

	人数	割合
とても良かった	17	63%
良かった	6	22%
あまりよくなかった	1	4%
よくなかった	0	0%
NA	3	11%
計	27	100%

【感想】

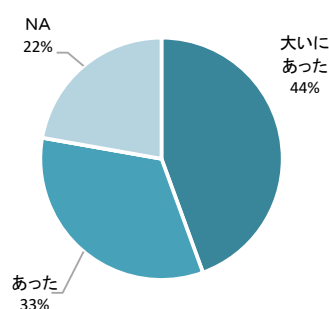


「とても良かった」「良かった」で85%となっている。

役立つ情報

	人数	割合
大いにあった	12	44%
あった	9	33%
無かった	0	0%
NA	6	22%
計	27	100%

【役立つ情報】

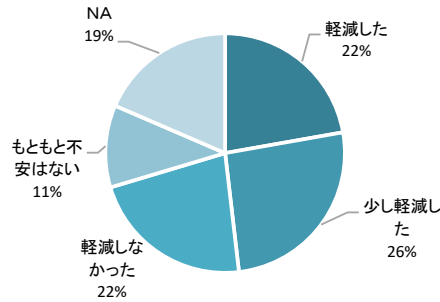


「大いにあった」「あった」で77%となっている。

不安の軽減

	人数	割合
軽減した	6	22%
少し軽減した	7	26%
軽減しなかった	6	22%
もともと不安はない	3	11%
NA	5	19%
計	27	100%

【不安軽減】

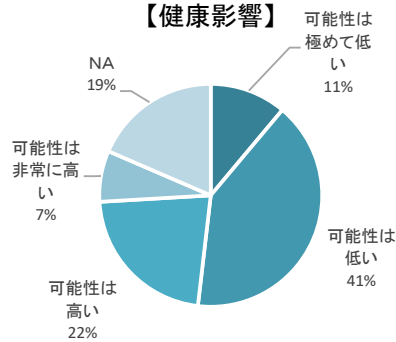


「軽減した・少し軽減した」は48%、「もともと不安はない」が11%となっている。

放射線の健康影響について

	人数	割合
可能性は極めて低い	3	11%
可能性は低い	11	41%
可能性は高い	6	22%
可能性は非常に高い	2	7%
NA	5	19%
計	27	100%

【健康影響】

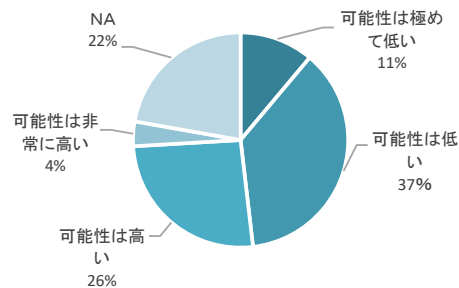


「可能性は極めて低い・可能性は低い」は52%。「可能性は極めて高い・可能性は高い」は29%となっている。

次世代以降の影響について

	人数	割合
可能性は極めて低い	3	11%
可能性は低い	10	37%
可能性は高い	7	26%
可能性は非常に高い	1	4%
NA	6	22%
計	27	100%

【次世代の影響】



「可能性は極めて低い・可能性は低い」は48%。「可能性は極めて高い・可能性は高い」は30%となっている。

講座でよかったこと(抜粋)

- ・免学的データや実証的データを基に理解しやすく、エビデンスをはっきり証明を示し理解することができた。
- ・原発問題を考える上での放射線の知識を得るきっかけとなりました。
- ・染色体異常との関連を学べた。
- ・原発事故が原因とする要因が分かった。
- ・シーベルトの解釈と広島と福島の原発事故の違いを知れたこと。
- ・経験に基づいた分かりやすいお話でした。
- ・科学的根拠がよく理解できた。

役に立つ情報(抜粋)

- ・放射線の単位について分りやすく学べた。漠然と見ていた放射線量のニュースの見方が変わったと思いました。
- ・研究結果における数字での結果、改めて肯定も否定も出来ないと感じました。
- ・吸収線量(グレイ)と放射線量(ベクレル)の違いや、放射線による細胞の障害度合を知れた。
- ・広島などの原子爆弾との被害の比較が今後の考え方に生かされると感じました。
- ・講座で学んだことを、友人などに話すことについて自信がついた。

感想等(抜粋)

- ・放射線に対し市民の多くの方がいろいろな思いや考えを持っているものだと参加してみて分かりました。
- ・原発の問題は日本全体で忘れていくか忘れようとしていると思う。原発の問題に対し国民は反省や勉強が必要と思う。
- ・1年に1度、講義をお聴きすることで、放射線のこと原発のこと福島の被害のことを忘れないようにできると考えます。
- ・被ばくの影響は身体的にも精神的にも今後も長期化すると思う。このことからこのような講演会を続けて欲しい。
- ・放射線に対しあまり神経質にならず自分で心得てその都度診察するようにすればいいのではないかと思います。

評価

「福島第一原発事故 ～人と科学と地域と～」をテーマに、放射線が細胞に与える影響や広島・長崎原爆事故と福島第一原発事故の放射線被害の違いと考え方などご教授いただいた。疫学的知見に基づき、専門的でより充実した内容となっており、熱心に学習しようと聴講する受講生の姿が多くみられた。アンケートの結果により講座の目的は十分に達成できたと思います。

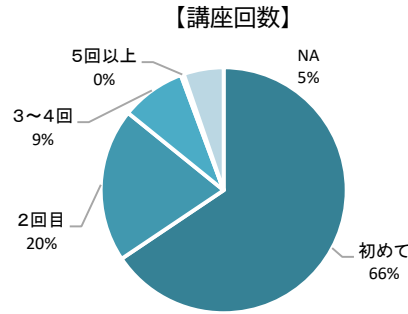
令和7年度「放射線と子どもの健康講座」アンケート集計結果

〔講座4 放射線と子どもの健康講座〕

- 実施校:2校 (渡利中・福島第二中)
- 講師:いちかわクリニック副院長 市川陽子先生
- 参加者:247人 アンケート回収 247件

講座参加回数

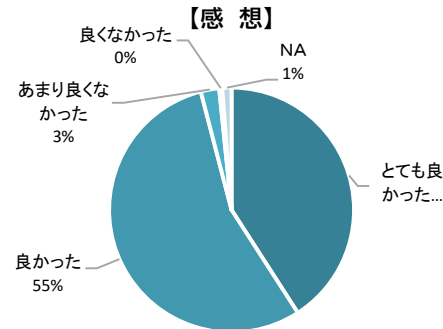
	人数	割合
初めて	162	66%
2回目	50	20%
3~4回	21	9%
5回以上	1	0%
NA	13	5%
合計	247	100%



「初めて」が66%「2回以上」が29%となっている。

講演会の感想

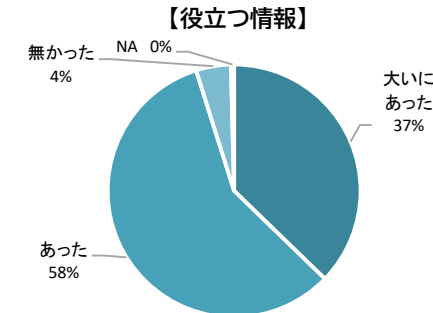
	人数	割合
とても良かった	101	41%
良かった	136	55%
あまり良くなかった	6	2%
良くなかった	1	0%
NA	3	1%
合計	247	100%



「とてもよかった」「よかった」が96%をしめた。

役立つ情報

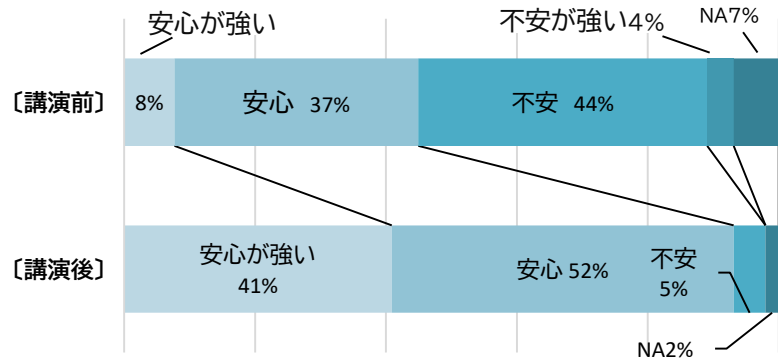
	人数	割合
大いにあった	92	37%
あった	143	58%
無かった	11	4%
NA	1	0%
合計	247	100%



「大いにあった」「あった」が95%をしめた。

講演前の放射線に関する気持ち

	人数	割合	
安心が強い	1	8%	
	2	92	37%
	3	109	44%
不安が強い	4	10	4%
NA	17	7%	
合計	247	100%	



講演の前後で「安心が強い・安心」が45%から93%となった。

講演後の放射線に関する気持ち

	人数	割合	
安心が強い	1	101	41%
	2	129	52%
	3	12	5%
不安が強い	4	0	0%
NA	5	2%	
合計	247	100%	

講演前後の放射線に関する不安の変化

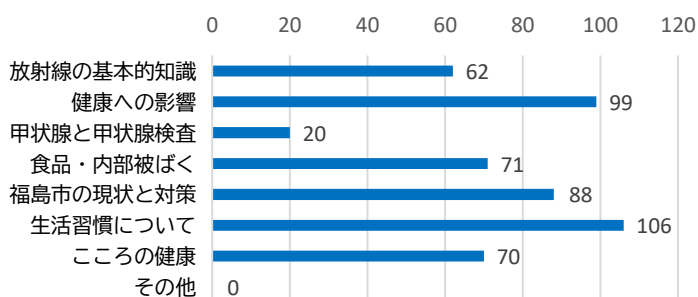
R7年度 2校合計	講演前		講演後	小計	合計	割合
不安が軽減した +3	4	-	1	2	2	1%
不安が軽減した +2	3	-	1	33	37	15%
	4	-	2	4		
不安が軽減した +1	2	-	1	42	115	47%
	3	-	2	69		
	4	-	3	4		
変化なし	1	-	1	18	71	29%
	2	-	2	48		
	3	-	3	5		
	4	-	4	0		
不安になった -1	1	-	2	1	2	1%
	2	-	3	1		
	3	-	4	0		
不安になった -2	2	-	4	0	0	0%
	1	-	3	0		
不安になった -3	1	-	4	0	0	0%
NA				20	20	8%
			合計	247	247	100%

【放射線に関する気持ちの割合】

- 1 安心が強い
- 2 安心
- 3 不安
- 4 不安が強い

今後、聞きたい内容(複数回答)

	回答数
放射線の基本的知識	62
健康への影響	99
甲状腺と甲状腺検査	20
食品・内部被ばく	71
福島市の現状と対策	88
生活習慣について	106
こころの健康	70
その他	0



よかったこと(抜粋)

- ・放射線についてあまり分からないし、影響なども知らなかったけど今回の講座で細かく学びました。
- ・放射線の影響や健康に暮らすために大切なことなどの話が聞けたことがよかった。
- ・放射線が私達の普段食べている物にも含まれているけど、少量ならば人体に全く影響がないということ。
- ・放射線のことがたくさん知れて良いことや悪いことがたくさん聞けた。放射線に対して思うことが変わった。
- ・モニターの資料がプリントされていてとても分かりやすかった。絵やイラストが簡単な言葉で理解ができた。
- ・福島は安全ということが改めて分かったから安心できた。福島で健康に暮らすためにできることが分かった。
- ・放射線や健康について、改めて思い出せたり新しい情報を知ることができてよかったです。

役立つ情報(抜粋)

- ・放射線は体外に排出されるということが分かり、体内に溜まり続けると怖いという気持ちがなくなりました。
- ・放射線は体に悪影響だけではなく、輸血する血液の殺菌にも使用されていることが分かった。
- ・福島原発事故の放射線被ばくは将来病気になるほどの量ではないと知って安心した。
- ・講座を聞く前は放射線は食べ物とかに影響があるのかと思っていただけ、聞いた後は食べ物安全だと思いました。
- ・メディアの情報だけをうのみせず、情報を見極めることが大切だと分かった。
- ・放射線＝がんではなく、生活習慣がほとんど原因であることなど全て役にたつ内容だと思いました。

感想(抜粋)

- ・講座を開いてくださりありがとうございました。小学校の時に受けた時より放射線の基本的な知識を得ることができました。この情報をもっともっと全国、全世界の人に知ってもらいたいと思いました。
- ・自分の健康にも関係があるので、放射線やがんは危険なものという印象でしたが講座を通して印象が変わりました。これからは生活習慣も気を付けていこうと思います。
- ・前回の講演でも思っていたが、「放射線」は想像よりとても身近であると分かった。また、生活習慣が精神的なことも大きく関わっていることを改めて知った。自分の努力でできる範囲で生活習慣を見直していきたいと思った。
- ・放射線と聞くと良いイメージがなかったが、今回の講話を聞いて福島での甲状腺被ばくが少ないことが分かり安心した。福島県民として安心して暮らしていけると思った。
- ・放射線に対するさまざまな情報を学べてよかった。不安を煽る嘘の情報に惑わされないことを意識して生活しようと思った。

評価

原発事故から15年が経ち、現中学生は事故当時のことは情報でしか知らない世代である。講座では放射線の基礎知識を学び、将来の健康不安の軽減と、誤った情報に惑わされず自らの考えを持てるようになることを目的として行った。講演前、放射線に対し不安に思う生徒が全体の48%と半数をしめたが、講演後は正しい知識を理解することで、安心に思う生徒が93%となりました。この講座の目的が十分に達成できたと思います。